第４０回宮前地区青少年作品展『書道の部』講評

作品展の開催、おめでとうございます。「書道の部」には、たくさんの作品が出品されており、みなさんが真剣に作品に取り組む様子が目に浮かんできました。そして、一枚一枚の作品に、思いを込めて丁寧に書かれているのが伝わってきました。

低学年のみなさんは「ともだち」という文字でした。ひらがなの柔らかさや曲線を意識して書くことは、実はとても難しいのですが、文字を書く上で大切にしたい、「とめ」「はね」「はらい」など、基本をしっかりと押さえて書かれていました。「ともだち」と楽しく過ごしている時間を思い出させてくれるような、伸びやかな作品ばかりでした。

中学年の「明るい声」は、言葉の意味がそのまま伝わってくる作品ばかりでした。今回の課題は、漢字とひらがなの字配りと行の中心がとりづらい課題だったと思います。紙全体を見るために書く時の姿勢を整えて、文字の中心と行の中心が一致するように書くことを意識していきましょう。

高学年は「広がる夢」でした。みなさんの夢が文字を通して、ずっと未来まで広がる可能性を感じました。さすが高学年と感じられるような作品ばかりでした。「広」と「夢」の左はらいは、丁寧に筆を運んでいることが伝わってきました。また、漢字とひらがなの文字がバランスよく配置されている作品も多かったです。

中学生のみなさんの作品は、小学生のみなさんにもぜひ見ていただきたいと思います。「感謝する心」の作品全体の構成、調和が見事です。筆づかいも次の画につながる意識があり、文字全体に流れを生みだしています。漢字とひらがなのバランスが大変難しい作品だったと思いますが、どの作品からも「感謝する心」が伝わってきました。

書は、作品に取り組むことで自分と向き合い、作品を書くことで自分を表現できます。そして、いろいろな言葉を書くことで、言葉にイメージや思いを込めて表現することができます。「こんなふうに書きたい」「表現したい」という自分らしさを大切にして、これからも書くことを楽しんでほしいと思います。

審査員　川崎市立白幡台小学校　　校長　　五十嵐　忍